

# JICA シニアボランティア

# 千葉

SVニュース千葉 第28号

2018年3月9日発行

千葉県JICAシニアボランティアの会

## 本号目次

公開講演会 活動報告会	1-2
出前講座 会員の動静	3-4
派遣国事情	5-7
家族連絡会	8
県庁表敬訪問	8
ボランティア春募集	8

## 公開講演会・第24回活動報告会を開催

1月26日（金）午後1時より千葉市の千葉市国際交流プラザで、JICA東京国際センターの長谷川敏久氏を講師に迎え、第24回公開講演会と帰国した海外派遣シニアボランティア3名による第24回活動報告会が行われました。寒波襲来の最中にもかかわらず、来賓3名、一般参加者6名、会員30名、計39名の参加がありました。

活動報告会は、スリランカから帰国の山崎豊氏、ニカラグアからのベヒシュタイン玲子氏、ザンビアからの宮崎征士氏の3名でした。報告者はそれぞれ任地の生活事情や活動内容、異文化で戸惑ったことやそれをどう克服していったかなどについてユーモアを交えながら楽しく語りました。

### 会長挨拶 渡邊 要吉

皆さんご多用の中大勢ご来場頂き有難うございました。当会も会員が110名となりました。全国的にもこれだけの会員がいる会は少ないようです。

私たちシニアボランティアは、海外で経験してきたことなどを公民館や学校などで報告し、社会還元の任を果たすため取り組んでおります。

本日は、JICA東京事務所の長谷川次長をお招きして、国策としてのJICAの海外協力方針など詳しくお伺いしたいと考えました。

また、シニアボランティア3名による活動報告が行われますが、大変楽しみであります。この後、懇親会もありますが、会員相互の意見交換などの場にしたいと思います。

シニアボランティアの会では「無理せず」「愉快地」「仲良く」という伝統がありますが、この会を実り多いものにし、発展させて参りたいと思っております。今日は一日よろしくお願い致します。



## 公開講演会

### JICA東京国際センター次長 長谷川 敏久 氏

### 「JICAの今と市民参加」

長谷川氏はJICAの新しいビジョン等について、改訂の背景となった昨今の世界情勢も踏まえ、詳しくわかりやすい説明をしてくださいました。

JICAの開発途上国への協力は、技術協力やボランティア派遣事業であり、「信頼で世界をつなぐ “Leading The World With Trust” 」という新しいビジョンで国際事業を進めています。

米国や欧州の一部で反グローバリズムの動きが台頭するなかで、日本は「国際協力を日本の文化に」をスローガンに、一貫してグローバリズムの方向で取り組んできました。これからも変わらずNGO、自治体など民間セクターと協力して取り組んでいきます。

今やグローバル化した時代には貧困は途上国だけの問題で

はなく、先進国もそれぞれ目標を設定して取り組む時代になっています。

国際理解を深めるために、わが国では文部科学省の指導要領に追加を求め、若手教師の海外派遣も行っています。また、中高校生を対象に毎年夏に国際協力をテーマとしたエッセイコンテストなども実施しています。

新しい施策として、中小企業の海外進出を支援するとともに、日本の物流システムを紹介するため海外からの研修者も招いています。その結果、南房総の「道の駅」がインドネシアで取り上げられ、実施されたという成功事例があります。

シニアボランティアの会には、地道にボランティア活動の経験と知識の社会への還元ということでご協力を頂いておりますが、これからも変わらぬ協力活動をお願い致します。



## 第24回活動報告会

### 「教員養成大学での活動 ～数学教育～」

山崎 豊 氏



配属先はスリランカの首都から南東150 km離れたアクレッサ市にあるニルワラ教員養成大学でした。授業では現地の教科書を基に、生徒を考えさせる授業のあり方や授業の運び方を教えました。また、数学の学習面だけでなく、生徒の掌握方法や授業の進め方の方法なども教えることができました。教材開発では、課題を整理し考えを引き出す教材作成に力を注ぎました。また、地元のスリランカの学生が、日本人学校を見学したことで、肌身で日本の学校の良い点を感じ、将来のスリランカ教育の一助となったと確信しています。

また、数学の学習面だけでなく、生徒の掌握方法や授業の進め方の方法なども教えることができました。教材開発では、課題を整理し考えを引き出す教材作成に力を注ぎました。また、地元のスリランカの学生が、日本人学校を見学したことで、肌身で日本の学校の良い点を感じ、将来のスリランカ教育の一助となったと確信しています。

スリランカでは人と人が直接対話し、人間味を感じる教育をしていました。冗談を言い、笑い、悲しみ、怒り、尊敬し合う、そういう関係が教室の中にありました。このボランティアの経験を通して教師が生徒の表情を見ながら教育することの大切さを再確認しました。

人が人を教育して初めて人になるのではないのでしょうか。派遣期間中に千葉県山武市教育委員会のスリランカとの交流プログラムをお手伝いしました。日本とスリランカの中高校生との交流やJICAボランティアの活動見学などでした。

任期終了後もその活動を続ける機会を得ることができ、東京オリンピックまで続けたいと思っています。また、スリランカに行く前は国内外旅行の添乗員をしていましたので、復職して南アジアを主に回りたいと考えています。観光名所を紹介するだけでなく、それらの国々と日本との関係などを伝えることは、ボランティア経験の還元・発信につながると思います。

### 「行くときに泣いて、帰るときに泣く国ニカラグア」

ベヒシュタイン 玲子 氏



初めてのシニア海外ボランティアとして派遣されたのは、全く想定外のニカラグアでした。赴任前のイメージは、暑い、治安が悪い、デング熱など蚊の病気が心配というマイナスのイメージばかりでした。

不安いっぱいですが、実際はそう悪くありません。一年中青い空・色とりどりの花々・貧しい国ながら家々の壁の色やドアの色にしゃれた色彩感覚が見られ、心の中まで明るく照らしてくれます。また、たいいていの人々は大家族で暮らしており、何より家族や友人を大切にします。初対面から親しく打ち解

けて、すぐ友だちになれます。いったん友だちになってしまえば、もう家族のように大切にされます。

そうやって2年間めぐめぐと活動しました。任務は首都マナグアにある中米大学で日本語を教えながら、将来ボランティアがいなくても自立運営していけるように現地教師たちを養成・訓練するというものでした。

日本語教室の学生たちは、自分たちの首都がゴミだらけなのを非常に恥じています。政府は、観光客対策にイルミネーションを取り付けた人工の木をメイン道路に配置して多額の維持費を費やしています。その一方でインフラ整備が進んでいないのです。良識ある若者たちには、そういった矛盾を正そうという強い意志が感じられました。現在の老政治家たちが世代交代するころには、より質の高い中間労働者が増えて、ニカラグアは倫理的にも経済的にも先進国の仲間入りをするでしょう。

### 「ザンビアの観光開発」 宮崎 征士 氏



世界遺産ヴィクトリアの滝をはじめ、他にも幾つかの魅力ある観光サイトがあるにも拘わらず近隣諸国と比較して観光客が少なく、どうしたら観光を活性化できるかが与えられた課題で

した。

ザンビアはアフリカ南部の内陸国で、途上国でも最貧国の一つです。一般に日本ではアフリカは貧困、年中暑い、治安が不安定、さらに感染症流行地域などのネガティブ面が多く、観光で訪れる場所ではないとのイメージが先行しています。しかしながらイメージと実際では大きなギャップがあります。5月～7月頃は朝夕冷え込み、飲食店では炭で暖房を取る所もあります。またこの時期は毎朝が日本の秋空に似て清々しい毎日です。雨季で

は雨も降りますが、30～40分ほどのシャワーです。

世界三大瀑布のヴィクトリアの滝以外に観光客を引き付ける資源が任地リビングストーンにはあります。北ローデシアの首都であったリビングストンの街の雰囲気は、英国の影響を受けて街もきれいに整備され、落ち着ける所です。人々は素朴で柔和、正直で外国人へのホスピタリティ精神が溢れています。観光の中心地でありながら治安も安定し、街は安全です。

それではなぜ観光客が少ないのでしょうか？

課題の一つは観光魅力を財政不足から発信できないことです。リビングストーン以外にも見どころは多くありますが、国内アクセスが未整備で、多くの日数をとれない日本人観光客の訪問には時間がかかり過ぎます。

しかしながら観光は経済効果以外に、文化に触れ人々と接することなどにより相互理解を生み、国際親善にも役立ちます。実際に現地を訪問し、ぜひ多くの方々に真のアフリカを体験して頂きたいです。訪問者にとって途上国の援助にもなります。



## 出前講座実施報告 (2017年6月～2017年10月)

### 「ブータン王国から見た幸せとは」

7月11日(火) 講師 三輪 達雄 会員

香取市佐原中央公民館で、標記のテーマで、参加者48名を対象に講演を行いました。

ブータンは九州と同じ大きさで、人口は70万人。標高は100m～7,500mで多様な自然、動植物に恵まれています。道路が悪いので、マイクロバスで西端から東端へ移動するのに、4日もかかります。

講師は、地勢、産業等の概要のほか、宗教、聖地、生きがい、人々の大らかな人柄、人生観、家族構成、家の構造、食べ物など生活情報について美しいスライドをたくさん用いて説明

し、聴衆を魅了しました。

国民の98%が現状に満足している世界一幸せな国、それがブータンです。国民総生産（経済発展）よりも国民総幸福を優先し、「森林の60%維持」を国策としていいます。

ブータン人は、フーテンの寅さんの要素が強く、時間や約束は守らない、借りたお金はかえさないというダメな人だけれど、お人好しで親切である、という話に聴衆はびっくりしていました。民族衣装、民族楽器などは、話の雰囲気を高めてくれました。



民族衣装「ゴ」を着用した講師

### 「JICAの仕事を終えて感じること」

8月16日(水) 講師 加藤 哲男 会員

市原市八幡宿公民館主催の「いきいき八幡塾」で受講生29人を対象に出前講座を行いました。シニア向けの講座では女性の参加者が多いのですが、今回は男性の参加が多く18人でした。

これまでの赴任地インドネシア、ボリビア、ペルー、シリアの4か国の概要、気候や風土や食べ物などについて、多くの写真を見せながらの説明でした。また国ごとにその地域の民族衣装を着て、民族音楽を流すパフォーマンスまでありました。

食品工場の品質管理という仕事を通じて知り合った現地の人々の生き方・考え方を知れば知るほど、一概に日本式やり方で改善を図るようなことはできないと思うようになったいきさつを話

しました。つまり、現地の人達自身が、変えようとする限り改善はできないものだという事です。

シリアの政治情勢と戦争の実態について、平和

だった頃のシリアと戦乱で破壊された後のシリアを写真で比較しながらの説明がありました。シリアの友人たちの現在の生活、難民の祖国脱出の状況などを聞き、今まで遠い国だった中東がよくわかったという参加者もいました。しかし「日本は難民受け入れが最も少ない国ですが、日本に難民が来るのをどう思いますか」という講師からの問いかけには、皆さん考えこんでいました。しかし講師の思いは十分に伝わっていると感じました。

インドネシアのえびせんべいやシリアの乾燥果物などを、みんなで少しずつ試食しながらの楽しい講演でした。



### 「素敵でパラオの人々」

10月11日(水) 講師 中村 時夫 会員

柏市旭東小学校において6年生57名を対象に、中村時夫会員が標記の演題で講演を行いました。

講師は、パラオの教育省に数学の教師として赴任し、カリキュラムの見直しを始め、学生や先生の指導に当たりました。

パラオは、南太平洋の島国、人口は約2万人で親日国です。その一例として、JICAの支援で建設された300mの橋「日本とパラオの友好の架け橋」を写真で紹介しました。

講師は、小学校校長だった経験から、生徒の興味を誘う課題を事前に与えていました。課題の下調べの中で子供達には、既に聞く準備ができていました。その流れの中で、パラオの国土や人々の生活の様子を分かり易く話をしました。

生徒が抱く夢を誘導し、ユーモアを交えた話術、写真を多用した話は、1時限の間、生徒の心をくぎ付けにして終わりました。



## 「人生の扉・海外ボランティアで得たこと」

10月18日(水) 講師 高瀬 義彦 会員

市川市市川公民館の雑学大学燦燦会において47名の参加者を対象に講演会を行いました。講師はパラグアイとシリアで半導体デバイスと情報処理を指導しました。

難しい専門の話は簡単に済ませ、ユーモアを混じえながら任国の自然、食べ物、住まい、衣装、現地の人との交流など聴衆の興味を持っていることを中心に話しました。

そのため、聴衆は両国がどんな国で、人々は何の様な生活をしているのか、などを頷きながら聞き入っていました。

パラグアイについては、緑豊かな写真を多用して、自然に適応

した多種の野鳥の説明をし、これは圧巻で、聴衆の心をすっかり捉えました。

シリアでは、サウジアラビアの人々が着用するような服を着ている人は見かけず、日本や西欧と似た服装

で、工学部にたくさんいる女性たちもイスラムスカーフを着用している人は少数でした。さらに、食べ物は豊富で安く、酒も売っているとの説明に聴衆は驚いていました。

主催者から内容が素晴らしいので時間延長を望まれ、聴衆からは、良い講演を聞くことができたお礼を言われました。



## 「JICAのシニアボランティア活動を通じて」

10月18日(水) 講師 濱崎 丘 会員

市川市市川公民館の雑学大学燦燦会において47名の参加者を対象に講演会を行いました。(同上に引き続いて実施)



JICAの活動の概要を説明した後、チリを中心に、どういった国について話しました。

生活は、食べ物は、人間関係をどのようにして築いたかなどについて写真を多用しユーモアを交えて説明しました。

言葉が十分でないので、周囲から浮き上がらないように努力しました。具体的には、チリ人だけの会議にも積極的に参加したり、すし作りを実演して試食させたり、さらに日曜毎に教会に通い住民と接触するようにしました。

その結果、2年目には周りの人から仲間として認めて貰えるようになったという苦労話は、聴衆に共感を呼びました。

SV活動を通じて他人に振り回されず、自分を生かすことの大切さを学び、帰国後も両国の架け橋となるように努めていると述べました。最後に、「コンドルは飛んでいく」のビデオに合わせてハーモニカを演奏し、聴衆を唸らせました。

こちらも、主催者から時間延長を望まれ、聴衆からは聞きごたえがあり、来て良かったとお礼を言われました。

## 会員の動静

平成28年4月1日から平成29年1月末日までの間に帰国された方は次のとおりです。(敬称略)

・伊藤 義博 (千葉市)	コロンビア	防災・災害管理
・榎本 良弘 (習志野市)	ガーナ	電気・電子機器
・石橋 明氏 (山武市)	ガーナ	電子工学
・岡崎 英子 (千葉市)	モロッコ	音楽
・黒田 啓嗣 (野田市)	メキシコ	コンピュータ技術
・佐々木 英夫 (流山市)	ペルー	日本語教育
・田畑 成章 (柏市)	ウズベキスタン	経営管理
・中村 良一 (習志野市)	ペルー	冷凍機器・空調
・バビシタイン 玲子 (佐倉市)	ニカラグア	日本語教育
・宮崎 征士 (流山市)	ザンビア	観光開発

平成30年1月末日現在の派遣中の方は次のとおりです。(敬称略)

・鈴木 核 (市川市)	ザンビア	経営管理
・建川 大輔 (鎌ヶ谷市)	マレーシア	電気通信
・中西 陽典 (我孫子市)	アルゼンチン	経営管理
・増田 光司 (市川市)	モロッコ	日本語教育
・村田 径聡 (船橋市)	マーシャル	コンピュータ技術
・山崎 勝也 (八千代市)	カンボジア	コンピュータ技術
・吉田 知弘 (君津市)	チリ	作業療法
・石原 建男 (富里市)	ドミニカ	理学療法士
・岩井 潮里 (千葉市)	ソロモン	栄養士
・神林 恒男 (柏市)	コロンビア	品質管理
・高崎 忠信 (佐倉市)	カンボジア	コンピュータ技術
・畑野 郁子 (習志野市)	アルゼンチン	日本語教育
・宮澤 三造 (佐倉市)	タイ	コンピュータ技術
・宮野 伸也 (千葉市)	スリランカ	養蜂
・浦木 仁 (市原市)	コロンビア	品質管理



## 派遣国事情 現在派遣中の会員、最近帰国した会員のホットな現地情報です。



### アルゼンチン

#### アルゼンチンのカイゼン活動

職種 経営管理 中西 陽典

私が活動しているアルゼンチンは、亜熱帯から南極圏をカバーする広大な国土（日本の約7.5倍）に約4,200万人が居住する南米の大国で、国民の大半はイタリア、スペイン系を中心とした欧州系移民と極少数の先住民、その他の地域からの移民で構成されています。（内日系人は約6.5万人）公用語はスペイン語で、業務、生活両面でスペイン語が必須となっています。

私はブエノスアイレスのアパートに住み、郊外の配属先まで地下



鉄と電車を乗り継いで通勤しています。地下鉄は路線が限られ、鉄道は近郊線のみで、長距離移動も含め、バス路線網が非常に発達しています。街並は整

然と区画され、美しい公園やコーヒーショップが多いためか、街の雰囲気は、ヨーロッパの都市を想起させます。同業組合が強く、競争が少ないせいか、公共料金を除き、物価が高く、インフレ下での生活という難しい面もありますが、全体として暮らしやすい印象を持っています。

私の配属先は、国内各地に研究開発センター、支部を持ち、各種産業分野の試験、分析、度量衡検査の他、環境対策技術支援や品質改善、生産性向上に関する中小企業支援を実施して

います。私が所属する経営管理技術開発普及部は部長以下職員14名で、2016年3月末に赴任以来、要請に従い、中小企業の経営改善、体質強化を支援する活動を行ってきました。

活動開始時、カウンターパートより、歴史の浅い地方支部担当者のレベルアップと、地方企業にも経営管理技術の紹介、普及を図って欲しいとの要請がありました。

ブエノスアイレス本部での活動に加え、これまで15州の地方支部を訪問、担当職員への研修、累計100社以上の地方企業を訪問・支援、並びに大学で60回以上のセミナーを行いました。

2017年に入ってから、「カイゼン」の概念、活動推進手法に重点を置いた活動を行っています。配属先では多くの職員が日本でJICAの研修を受けており、また前任のシニアボランティアが活動していたので、経営管理に関する基礎知識は十分持っていますが、経営管理の体系的知識、実践的応用力が不足しているように見受けられました。そのため、私は経営管理理論の体系と、今まで実践したそれらの活用例、「カイゼン」の概念と、活動推進手法を紹介することに重点を置いて活動しています。



### ザンビア

#### ザンビアの職業訓練

職種 経営管理 鈴木 核

首都ルサカの空港でまず感じたのは、空が広い。高い山、建物がなく、見渡す限り青い空が広がっています。そして7月ともな

ると、寒い！ アフリカ＝暑いというイメージがありますが、6月～7月の朝晩は冷え込み10℃以下の時もあります。それでも日中は24℃くらいまで上がります。人々は礼儀正しく親切で、スーパーのレジなどでもまず「ご機嫌いかが？」との挨拶から始まります。また、子供たちは年長者にひざまずいて挨拶するので、こちらが恐縮してしまいます。「自分はライオンなど野生動物を見るとワクワクするが、こちらの人はどうなの？」という私の質問に対し、

(6 ページに続く)



ザンビア最大のカフエ国立公園のライオンの親子

「まったく同じ。一生の間にそれらを見ない人だっている。ライオンが街中を歩いているわけではない。」という答えだったのが面白く、なんとなく嬉しくなりました。

ザンビアは、銅の輸出で経済成長を遂げてきた国ですが、気候変動による降雨量不足と市況の銅価格下落により、食糧不足、電力不足、経済停滞という問題を抱えています。「銅の一極集中」であることが問題に拍車をかけており、さらに計画を立案し実行することが不得手な民族性が、経済面を多様化できなかった要因と思われる。土地は豊か、水も豊富なことに加え、部族内、村落内、家族内の助けあいの精神も高く、「何とかなってきた」ことが背景にあるのでしょう。その文化を大切にしながらも、地道に計画・実行できる人材を多数育てることが、今後のザンビアの発展と人々のよりよい生活のために必要と思われます。

配属先である産業訓練センター（ITC）は、国管轄の職業訓練校ですが、国からの予算が限られているため、自力運営を図り、銅鉱山会社への派遣研修等で維持・成長してきました。

しかし、経済低迷に伴い受注が減り、それを補うため新たな市場・顧客開拓に取り組んでいますが、組織内のコミュニケーション不足、業務プロセスの不透明さ、具体的計画の欠如などにより、空回りしている感があります。

赴任後、約21か月間に渡り、派遣先のカウンターパート（CP）をサポートしてこれらの課題の改善に取り組んできましたが、進捗ははかばかしくありませんでした。しかし、主だったメンバーに、ITCに変化が感じられるかインタビューしたところ、計画的に業務を進められるようになったことや内部のコミュニケーションが変化してきたという意見が多く出ました。コミュニケーション力向上のため、CPにコーチングを行って来ましたが、その結果が出ているかどうか周囲にヒヤリングを行いました。「反応的な面が減り、考えて対応していることがわかる」、「話をきちんと聞いてくれるようになった」、「背景を説明してくれるようになりITC全体のことを考えていることがわかった」等の声が聞かれました。

残りの任期は3か月を切りましたが、さらにITC改革をチームで進める体制を整えられるようにと、取り組み始めています。



派遣先の産業訓練センター（ITC）のみなさん

## スリランカ

スリランカの養蜂  
職種 養蜂 宮野 伸也

私は、まだ活動を始めてから日が浅いのですが、スリランカでの養蜂について書きたいと思います。

9月末に首都コロンボに来て、任地であるバンダラウエラには10月の中旬に来ました。バンダラウエラは山の中の小さな町です。コロンボからは車で6時間から7時間かかります。スリランカと言えば赤道近くに位置する熱帯の国ですが、ここは標高が

1,200mあり、熱帯とは思えない涼しいところです。陽が出るとさすがに日差しは強いのですが、今は雨期で雨の降る日が多く、ちょっと寒いくらいです。

私が所属するのは、Beekeeping Development Unit という農業省の機関です。養蜂に関する研究開発や普及事業、啓発活動を行うことを目的としています。スリランカでは世界中で養蜂されているセイウミツバチではなく、土着のインドミツバチで養蜂が行われています。インドミツバチは日本に土着のニホンミツバチと同じ種です。

ここでの養蜂作業で驚いたことは、蜂に対する防具を全く着けないということです。セイウミツバチの場合、面布と呼ばれる



頭部から顔面を被う網をかぶります。当然長袖、長ズボンで長靴を履き、手には厚手のゴム手袋をはめます。ところがこちらではこういうものはいっさい着けず、半袖で作業する人さえいます。養蜂作業を何回か見学し、また自分自身でも行った経験から、防具なしでの作業を可能にしている理由は以下の2つであることが判りました。



防具を付けずに養蜂作業をしている様子

一つ目は、この蜂は早い動きに強く反応するので、とにかく作業をゆっくりしているからです。

二つ目は、もし刺されてもあわてて手でつまみ取ったりせず、養蜂用のナイフで針をこそげ取るようにしているからです。このよう

にして針を取ると注入される毒の量が少なく、痛みもその後の腫れも少ないのです。また、この蜂はセイヨウミツバチよりも体が少し小さいので、毒の量そのものも少ないと思われます。



JICAのマークがある巣箱と巣板をもつ筆者

ここで私の任務は一言でいうとハチミツの生産性を上げることです。私は長く千葉県立中央博物館に勤務し、集団で暮らすハチ（社会性のハチ）であるアシナガバチを研究してきました。同じ社会性の蜂であるミツバチ（セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ）についても知識と経験があるので、お役に立てるのではないかと考えています。現在は任期の2年の間に優良品種の選抜ができないかと考えています。

## 浦安市国際交流フェスティバル

2017年11月18日（土）10:00～15:00、新浦安駅前広場で開催され、当会から役員を含めて6人が参加しました。

今にも雨が降りそうな曇天、気温も上がらず寒い中でのスタートになりましたが、国際交流・国際的活動をしている16団体のそれぞれの体験・活動紹介ブースが並びました。

10時に開会式があり、明海大学の留学生による司会で、ライブ、外国人によるトーク、ラグビートーク、民族ダンス（タイ、中国）、コーラス、民族楽器演奏などが披露されました。

当会のブースでは、派遣国での活動場面の写真を新パネルに作成して20枚を展示し、国際クイズも行いました。パネル写真を見て、説明をゆっくり読んで下さる方、陳列していたクイズの景品が目にとまってクイズに参加して下さる方など、計50人程の方が



当会のブース

当会のブースに立ち寄られました。クイズは親子であれこれ考えて回答され楽しんで頂いた様子でした。帰国会員から提供された景品は珍しいものが多く、集客にとっても効果的でした。

全体のクイズラリー、飲食・物販コーナーもあり、賑やかな場所もありましたが、今回は天候に左右された催しでした。

平成29年8月から平成30年1月までに当会に合計66,400円の寄付が以下の13名の方よりありました。

阿部清司、加藤哲夫、篠原温雄、添野良一、高瀬義彦、田畑成章、中村時夫、濱崎 丘、ベヒシュタイン玲子、宮崎征士、山口智史、山崎 豊、弓 貞子（敬称略）  
ありがとうございました。

## 千葉県JICAボランティア家族連絡会

2017年9月9日(土)午後1時から、現在派遣中のボランティアの家族連絡会と活動報告会が、千葉市ビジネス支援センター(きぼーる15階)でありました。

JICA東京国際センターの主催で開催され、50名程度の参加者がありました。主催者や来賓の挨拶の後、JICAボランティア事業はどんなことをやっているのか、サポート体制や帰国後の進路等も含めて説明がありました。

次にボランティア活動が終わったばかりの帰国隊員による、治安や食べ物などの現地の暮らしについての話が続きしました。



最後に、派遣された地域ごとに分かれての家族と経験者との懇親会形式で、現地で大変だったことはどんなことでしたか? なぜボランティアに行ったのですか? 等と具体的に率直にお話できる場があって、ご家族は安心され満足された表情で帰って行かれました。

## JICAシニア海外ボランティア千葉県庁表敬訪問

2017年12月19日(火) ボランティア活動が終了して帰国した隊員たちと、これから出発する隊員(2017年度第3次隊)が挨拶のために県庁を訪問しました。シニア隊員は、1名の帰国者と派遣者が4名でした。

式典は県庁の笹尾国際課長の司会で進められ、JICA 東京国際センター杉村課長が挨拶しました。ボランティア派遣先では、現地の人々のニーズに適合した、喜んで貰えるような活動を行ってほしいと期待を込めて激励の言葉を述べました。また帰国者には、任地と日本の架け橋の役を担い、今後も任地の事情説明や国際理解を広める活動など、ボランティア活動の継続を願っていると話しました。



森田知事の代理で富塚部長が、皆さんは県の代表者として元気な活動を期待していると述べました。

隊員はそれぞれ緊張の中にも自信に満ちた面持ちが感じられ、嬉しいボランティアに大きな拍手が送られました。

「千葉県JICAシニアボランティアの会」の平成30年度通常総会が5月12日(土)午後1時に浦安市国際センターで開催されます。

総会の前に、公開講演会「エクアドル人の妻との二人三脚」の話と民族文化の紹介もあります。

皆様のご参加をお待ちしています。

## JICAシニア海外ボランティア春募集説明会

ボランティア春募集説明会が変わります。

昨年までは、4月から5月上旬頃に、県内2か所で募集説明会(体験談&説明会)がありました。

この説明会の要領が、今般のJICA予算の大幅な削減により、4月から募集計画・実施方法などが変更になります。

詳細は、3月中にJICAのホームページ上で発表がありますので、「JICA 春募集」で検索して下さい。

### 会のしおり(パンフレット)作成!

当会の活動を多くの方々に知って頂くためにしおりを作りました。内容は、会の目的と主な活動を写真を多用して紹介しています。また合わせて「会の概要」もカラー化しても見易くしました。

会員の皆さんも出前講座の開拓や当会のPRに活用してください。(総会で実物をご覧いただけます)

